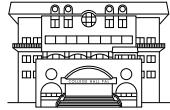


大学広報誌
[パル]



pal

place amie liberte

2021 SPRING Issue.539

特集

「コロナウイルス感染防止対策」

「北翔大学大学院 生涯スポーツ学研究科
生涯スポーツ学専攻 博士後期課程」

Campus Archive

Way to go!

University & College News

新着NEWS

Hokusho People



本学のコロナウイルス感染防止対策と取り組み

コロナ禍において、安全な学生生活と

学修環境の確保が求められています。

本学も感染防止対策を徹底しつつ、

授業展開に様々な対策を講じた年となりました。



大学の対策について

本学ではコロナ禍における適切な対応を行うために「危機管理行動指針」を策定しました。危機管理行動指針に基づき状況に応じて、学生、教職員及び大学関係者の安全を第一に対策を講じています。

レベル1～5の5段階
(0は通常時)に設定された

「危機管理レベル」をコロナウイルスの感染拡大状況を考慮して設定し、レベルごとに定められている活動の制限等を設けて感染拡大防止に努めてきました。



大学の対策をまとめた特設ページにて随時内容を更新しています。

是非ご確認いただけますようお願いいたします。

<https://www.hokusho-u.ac.jp/info/?i=2237>

危機管理レベルごとの対応

	Level-1	Level-2	Level-3	Level-4	Level-5
授業	基本的に対面授業 ※人数の多い授業や、その他配慮が必要な場合は遠隔も活用します。	遠隔授業を中心に展開 ※人数の多い授業や、その他配慮が必要な場合は遠隔も活用します。	遠隔授業のみで実施 ※通信環境等の問題がある学生は、大学設備を最小限で利用可能です。 ※許可を受けた学生のみが入構可能となります。	遠隔授業のみで実施 ※通信環境等の問題がある学生は、大学設備を最小限で利用可能です。 ※許可を受けた学生のみが入構可能となります。	全ての授業を休講
学生の課外活動含む自主活動	感染拡大防止に最大限配慮した上で事前申請のうえ活動を許可しています。	登校は事前の許可制 ※許可された学生以外は学内で活動できません。学内の課外活動について、申請によって許可される場合があり、登校した学生を把握します。	全面禁止・登校禁止 ※学外者も入構は施設設備維持等の必要最低限のものに限ります。	全面禁止・登校禁止 ※学外者も入構は施設設備維持等の必要最低限のものに限ります。	全面禁止・登校禁止

*北翔大学危機管理行動指針を要約。危機管理行動指針の全文は大学ホームページをご覧ください。

対面授業について

後学期からは、対面での授業で得られる学習効果を重視して、可能な限り対面授業を中心とした授業を展開しました。受講者が150名を超えるような一部の授業は基本的に遠隔授業としましたが、対面での授業で得られる学習効果を重視しています。

対策POINT

①授業時間の変更

公共交通機関での「3密」を可能な限り避けるために、通勤時間や高校生の通学時間との時間差をつけるよう授業時間を通常から変更して実施。通常より20分授業の開始時間を遅らせて行いました。

②教室での間隔

教室では、ソーシャルディスタンス確保のため前後左右の間隔を開けました。使用できない座席には使用不可の表示をして対応。教卓にはパーテーションも設置し、飛沫防止対策を行っています。



③学生への消毒キットの配布

対面授業を行うことで、登校時や学校内での人の接觸機会が増えてしまうので、日常生活の「消毒マナー」としてオリジナルの消毒キットを学生全員に配布しました。消毒キット内のスプレーは、大学内でアルコールの補充が可能で、感染予防に活用いただいています。



遠隔授業について

本学の遠隔授業では基本的に①テキスト授業、②オンデマンド授業、③双方向オンライン授業、④ハイブリッド型授業の4種類に区分されています。

後から授業内容を確認できるようにするために、基本的にはテキスト授業とオンライン授業で行っています。ただし、学生同士の討論や意見交流を必要とする講義においては、双方向オンライン授業でテレビ会議システム等を利用した授業展開も。

ハイブリッド型は遠隔授業と対面授業を組み合わせた方法です。遠隔授業と対面授業を交互に実施することで、遠隔による感染予防と、対面での授業効果をバランスよく活用できる授業形態も実施。遠隔授業というこれまでにない対応のなか、学修環境の確保に努めています。



対策POINT

①遠隔授業の方式を策定

後学期は「後学期授業実施マニュアル」を作成し、予め明確なルールを決めておくことで対応を統一して実施。特に、遠隔授業という新しい対応で学生の混乱を招かないようにするため、状況別にマニュアル化をしてスムーズな授業展開に努めました。

②遠隔授業実施のための環境支援

令和2年5月には希望者全員を対象に、通信環境支援のための給付金を支給し、学修環境の整備に活用していただきました。学内にもタブレット端末やPCを追加。さらに自宅での遠隔授業受講が困難な一部の学生が大学で遠隔授業を受講できるよう、遠隔授業用の教室も確保。遠隔授業に対して不安のある学生に対しては個別の相談も行っています。



北海道で唯一、「博士（スポーツ科学）」を取得できる博士後期課程がこの春から始まります。

北海道をはじめ氷雪寒冷圏域における生涯スポーツ社会の発展に向けて、

運動・スポーツや健康に関する高度な研究能力と

専門的技能を有する人材を養成する道内唯一の研究拠点が誕生します。

開設に向けて尽力された

川西正志 研究科長が、
その全体像について語りました。

チームで実現した研究拠点

私は鹿児島の鹿屋体育大学に33年間勤めた後、2018年から北翔大学に着任しました。鹿屋体育大学には大学院の体育学研究科に博士後期課程が開設されていることもあって、北翔大学に来た当初から「北海道にもスポーツ系の博士後期課程を開設したい」と、生涯スポーツ学部の竹田唯史学部長からお話をありました。その際に感じたのは、指導

スタッフの体制づくりや、輩出すべき人材像に関するコンセンサスを得ることが大切だということです。

それらの構想を固めていくため、2019年7月に将来構想検討委員会を設置しました。その後、12月には設置準備室を設けて文科省に申請するための資料を作成し、2020年3月18日に最初の申請をしました。7月には審査結果をいただき、それに対応して申請内容を改定する作業が行われました。

コロナの影響で準備室のミーティングもオンラインになりましたが、竹田先生がリーダーシップをとって立派な申請書が完成し、10月23日に開設認可をいただいたかたちです。南の鹿児島、北の北海道、

日本の南北にスポーツ系の研究拠点ができたことは、非常に素晴らしいことだと思っております。

北海道の運動・スポーツの現状

2021年4月からスタートすることになった博士後期課程は、北海道で唯一「博士（スポーツ科学）」を取得することができます。私たちはここで、生涯スポーツ学を「人の生涯の各ライフステージで継続的に実施され、様々な目的や興味・関心に基づいて行われる運動・スポーツの諸現象に対して、自然科学から人文・社会科学にわたるスポーツ科学の学際的研究アプローチによる基礎的・応用的・

実践的研究」と定義しました。そのような研究を実施することにより、高度な専門的研究者や高度な職業人・指導者の養成を目指しているわけです。

では、学生たちの研究対象となり得るような北海道の運動・スポーツの現状について簡単にご紹介します。まず、全国的に見ても北海道は高齢化が顕著で、過疎地域や条件不利地域では特に進んでいます。そんななかでいかに運動・スポーツを通じた健康づくりを推進していくかということが大きな課題となっています。一方、子どもの体力は全国的に1985年のピーク時から落ちてきており、北海道は50m走やボール投げの記録が全国平均よりも劣っています。この状況を打開するために、学校と連携した総合型地域スポーツクラブの活用

などが期待されています。

また、札幌冬季オリンピック・パラリンピックの開催を想定したうえで、第2期北海道スポーツ推進計画も進められています。ここで求められるのは、アスリートの競技力向上をサポートする研究です。さらにはパフォーマンスを維持するための経済的な体制づくりなども、社会科学的な研究を通じて構築していく必要があるのではないかでしょうか。

北海道を元気にする高度な人材を養成

以上のような北海道の課題に応えるため、博士後期課程は、大きくスポーツ科学研究分野と生涯スポーツ学研究分野に分かれて、研究を進めてまいります。定員3名に対して、指導教員は12名と、学生をサポートする非常に手厚い体制を整えました。

修了後に予想される進路は、研究者から現場の指導者まで多様ですが、私としてはやはり、運動・スポーツを通して北海道をいかに元気にすることができるか、そのための専門家、研究者、指導者をきちんと育てることが第一だと考えています。また、道内だけで研究が完結するのではなく、日本のスポーツ科学や生涯スポーツ学の分野に北海道から情報発信ができるエネルギーをもった研究者を



育成することが重要だと感じています。

コロナの影響で学生たちの教育・研究にかなりの制限がかかった2020年でしたが、そんななかで北翔大学に博士後期課程が新設されたことは、本学にとっても、北海道にとっても素晴らしいことではないかと思います。教員一同、素晴らしい人材を輩出するための努力を惜しませんので、スポーツ系の大学生、あるいはすでに現場にいて博士課程に進むことを希望されている方は、ぜひチャレンジしていただければと思います。お待ちしております。



川西 正志 Masashi Kawanishi
かわにしおまさし／研究テーマは、生涯スポーツの社会学的研究など、日本体育学会体育社会学専門分科会会長、日本生涯スポーツ学会会長などを歴任。

CAMPUS ARCHIVE

キャンパス・アーカイブ／2020年3月～2021年3月までの出来事

2020.3 - 2021.03

III Report

「ふるさと江別塾」を開催しました

令和2年10月17日、本学で「ふるさと江別塾」を開催しました。江別塾は、江別市・江別市教育委員会と市内4大学が連携協力し、各大学の特色を活かした講義を設定して、市民に学びの機会を提供することを目的に毎年開催されており、今年で21回目となります。

今年度、本学では、健康福祉学科で平成30年度から活動している「子ども食堂」についてご紹介いたしました。

マスク着用、消毒、体温測定、ソーシャルディスタンスの確保等、万全な新型コロナウイルス感染症防止対策のうえ、60名程の市民の皆様に参加いただきました。

- A.【講義】「子ども食堂・地域食堂×北翔大学」の立ち上げ方 講師：生涯スポーツ学部 健康福祉学科 教授：尾形 良子
B.【講義】ふと気が付いたら満員御礼！地域の居場所のスマスマ方 講師：生涯スポーツ学部 健康福祉学科 教授：岩本 希
C.子ども食堂スタッフとして活躍中の学生による寸劇で、おもてなしの大切さを表現しました。



III Report

「令和2年度 保護者懇談会」を開催しました

令和2年10月18日に、本学を会場として保護者懇談会を開催いたしました。

本学では、保護者の皆様に、本学の教育運営状況、学生の就学状況、就職状況及び

学生生活全般に関して説明をさせていただきました。

例年とは異なり、「キャリア支援の取り組み」や「教職支援の取り組み」等に関する全体の説明はホームページ上で公開し、個人面談のみを行いました。

ご多忙の中、懇談会にご参加をいただいた保護者の皆様、ありがとうございました。また、感染予防対策にご理解とご協力をいただきましたことに感謝いたします。

開催にあたり、マスク着用や手指のアルコール消毒、体温測定等にご協力いただき、使用会場内の換気を行い、面談を行う机の間隔なども十分に守った状態で実施いたしました。



2020.3 - 2021.03

WAY TO GO!

クラブ・サークル・学生たちの活躍

ニュース【コンペティション】



「富山デザインフェア2020」で本学学生が奨励賞を受賞しました！

芸術学科では、日頃の授業で学んだ知識と技術の腕試しとして、デザインコンペに向けた作品を制作・出品しています。

今年で2回目の参加となった「富山デザインフェア2020」では、7名の学生が夏休み期間を利用してパッケージデザインにチャレンジしました。今年は応募数164作品の中から、芸術学科2年 大澤 美桜さんが見事、奨励賞を受賞しました。おめでとうございます！

「富山の四季でラムネ菓子をつむす」というテーマで制作されたパッケージは、富山県の四季折々の雰囲気を色鮮やかな色彩で表現されています。今年は遠隔通信によるミーティングを重ねながら、コロナに負けずと作品制作に

精力的に励みました。

コンペの詳細、受賞者、受賞作品については、公式ホームページをご覧ください。

【参加した学生】

●芸術学科
2年／大澤 美桜さん、小坂 真帆さん
3年／阿部 美采樹さん、中谷 晴さん、
松山 千尋さん

4年／高橋 柚名さん

【指導教員】
浅井 貴也先生（芸術学科）
ナタリー・ティエン先生
(非常勤講師・グラフィックデザイナー)

■富山市ホームページ

富山デザインフェア2020「パッケージデザインコンペティション」
https://www.city.toyama.toyama.jp/shokorodobu/yukagybussanka/toyama-designfair-packagedesign-competition_2_2.html



スキー部

スキー部学生がフリースタイルスキー国際大会に出場し上位入賞！

令和2年11月21日・22日に、生涯スポーツ学部スポーツ教育学科4年でスキー部所属の村田優太郎さんと同3年の高岸岳さんが、スウェーデン（イードレッヒヤル）で開催されたFIS国際スキー連盟公認大会で上位入賞しました。コロナ禍で感染対策を万全とし、全日本スキー連盟の遠征として参加しました。

村田選手は、2017年度に全日本スキー連盟「タレント発掘育成事業」の指定強化選手となり、現在はU-24代表選手であり、

昨シーズンは、田沢湖で開催されたワールドカップにも出場しました。今年度の初戦となる本大会においては、第1戦は6位（日本人1位）、第2戦は7位（日本人3位）の結果を収めました。北京オリンピックでの金メダルを目指して、研鑽していきます。

高岸選手は、2019年世界ジュニア選手権に出場し11位となり、今後、活躍が期待される選手です。応援のほど、よろしくお願い申し上げます!!



FIS国際スキー連盟公認大会 競技中の様子
左／村田 優太郎（スポーツ教育学科4年）
右／高岸 岳（スポーツ教育学科3年）

バドミントン部

「2020年度

第74回 全日本総合 バドミントン選手権大会 北海道地区予選会 代替強化試合」 結果発表！

令和2年11月1日・3日に、「2020年度第74回全日本総合バドミントン選手権大会北海道地区予選会代替強化試合」が岩見沢市にて開催されました。

大会に参加した本学バドミントン部の主な結果を以下の通りご報告いたします！

【女子シングルス】

〔優勝〕内山 真希（スポーツ教育学科2年）
〔準優勝〕西村 ゆり香（教育学科4年）
〔4位〕佐藤 萌（ライフデザイン学科2年）

【女子ダブルス】

〔優勝〕向井 仁那（教育学科3年）
内山 真希（スポーツ教育学科2年）
〔準優勝〕佐藤 萌（ライフデザイン学科2年）
竹澤 知穂（教育学科1年）
〔3位〕谷川 紗（スポーツ教育学科2年）
日野 穂乃香（スポーツ教育学科2年）
〔4位〕甲斐 穂野香（スポーツ教育学科1年）
青柳 ゆう（スポーツ教育学科1年）



UNIVERSITY & COLLEGE NEWS

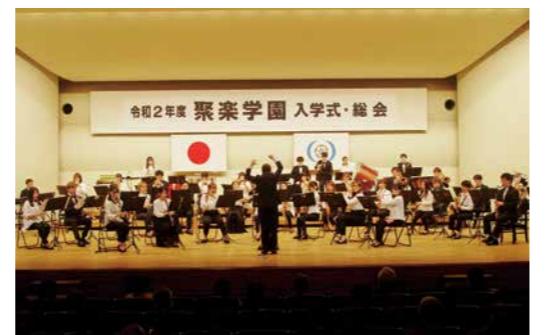
学部・学科ニュース

教育文化学部

教育学科 Department of Education

聚楽学園入学式「歓迎演奏会」出演

音楽コースにて管楽器、打楽器を履修する総勢40名の学生たちによる吹奏楽演奏会を10月15日、江別市民会館大ホールで行いました。「聚楽学園」とは、江別市の高齢者の自立をサポートする学習団体であり500名の会員が所属しています。私ども音楽コースへの演奏依頼は10年以上前からとなり、毎年の恒例行事としてクラシック音楽から歌謡曲まで幅広い曲目を演奏しています。学生たちは自分の「おじいちゃん」、「おばあちゃん」世代へ音楽をプレゼントする気持ちで演奏しており、客席からの掛け声や多くの笑顔は私たちへの大きな力となりました。



生涯スポーツ学部

スポーツ教育学科 Department of Sport Education

コロナ禍の遠隔授業を気遣って 「卒業生からICT機器の寄贈」ありがとう!

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大によって、多くの科目が遠隔授業となっています。コロナ禍において慣れない遠隔授業で苦労している在学生たちの様子を聞きつけて、スポーツ教育学科の卒業生たちから、後輩たちのためにと小型パソコン22台を寄贈いただきました。なんとも、嬉しい心遣いです。

学生からは、「課題の取り組みがはかどります」「パソコンを買いたくてもお金に困っていたので、とっても助かります」と喜びの声を多数もらっています。

卒業生の温かい支援のおかげで、コロナ禍でも、後輩たちは精一杯学修に取り組むことができています。スポーツ教育学科卒業生の皆さん、ありがとうございます。



健康福祉学科 Department of Health and Welfare Science

今年も1年生が地域活動デビュー! 「お宝バザーと食品配布会」を開催

健康福祉学科の学び最大の特徴ともいえる「子ども食堂・地域食堂」は、コロナ禍で休止の状態が続いていました。「子ども食堂に行きたい!」と期待を膨らませてきた1年生に、なんとか地域活動デビューをさせてあげたいと企画したのが「お宝バザーと食品配布会」。北翔大学子ども食堂・地域食堂にご寄付いただいた食品などを地域の皆さんに還元するイベントスタッフとして、感染対策を取りながら令和2年10月31日に無事地域活動デビューを果たすことができました!参加した学生たちは「地域の人がたくさん来てくれて、私たちの活動が皆さんに楽しみにもらっていることがわかって嬉しかった」と笑顔で語ってくれました。来年度こそは子ども食堂・地域食堂でもっと楽しい学びのひとときを過ごしてもらいたいです。



School of Education and culture

教育文化学部

教育学科 Department of Education

聚楽学園入学式「歓迎演奏会」出演

音楽コースにて管楽器、打楽器を履修する総勢40名の学生たちによる吹奏楽演奏会を10月15日、江別市民会館大ホールで行いました。「聚楽学園」とは、江別市の高齢者の自立をサポートする学習団体であり500名の会員が所属しています。私ども音楽コースへの演奏依頼は10年以上前からとなり、毎年の恒例行事としてクラシック音楽から歌謡曲まで幅広い曲目を演奏しています。学生たちは自分の「おじいちゃん」、「おばあちゃん」世代へ音楽をプレゼントする気持ちで演奏しており、客席からの掛け声や多くの笑顔は私たちへの大きな力となりました。



芸術学科 Department of Art and Design

「映像アート作品」を 札幌駅前通地下歩行空間チカホに展示



北海道庁と北の縄文道民会議が主催した「縄文夏まつり in チカホ（令和2年8月1~4日）」に芸術学科の学生チームが制作した映像アート作品「縄文トランスプロジェクト」が展示され好評を得ました。高さ2mのパネルを扇状に前後2列配置して奥行き感を演出した映像表現と自由な発想で創作した「アメコミ風縄文土偶ヒーロー」の存在感にチカホを通じる方々の多くが足を止めていました。

制作は、インテリア建築分野ゼミと美術分野ゼミの学生たちが協力して行い、原画は3年の岩永昂樹君が、映像制作は4年の能崎大輔君が主に担当しました。北海道・北東北の縄文遺跡群は、2021年の世界遺産登録を目指しており、今後の市民向けイベントでお披露目の機会がありそうです。

短期大学部

ライフデザイン学科 Department of Life Design Studies

「実践的教育の強化」で即戦力を目指して

ライフデザイン学科は、キャリアデザインコース・ファッションコース・舞台芸術コースの3分野構成で、理論と実践の両側面により即戦力となる人財育成を目指しています。



コロナ禍にある2020年度、前学期の大半を遠隔講義と後学期12月中旬までの対面講義により、今できる最大限の教育サービスを提供し、学生の学習意欲向上を目指しました。具体的には、キャリアデザインコースでは、1月札幌シティホテルにてテーブルマナー研修、11月には江別物産の学内販売をし、商品仕入れから販売、商品・財務管理等ビジネスの一連活動を学生主導で行いました。こうした理論ベースを大切にしながらも実践的教育強化を図っているのが本学科の特徴です。



Hokusho College

こども学科 Department of Childhood Studies

運動遊びの指導法を身につける「幼児体育指導者検定」

こども学科では、幼児体育指導者検定、幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格、こども環境管理士などの資格取得を目指すことができます。その中の1つ、「幼児体育指導者検定」(日本幼少年体育協会)が、令和2年12月5日~6日に実施され、保育コースの学生が参加しました。子どもの運動能力や体力の低下という今日的な課題を踏まえ、子どもの発育・発達に応じた運動遊びの指導法について学び、実際にリズム体操、マット運動などの手本と補助について体験しながら、子どもへのかかわりについての理解を深めました。2日目は理論と実技の試験も実施され、保育者・教育者に必要な専門的な知識と技術を高めることができ、大変有意義な2日間となりました。



高大連携

北海道石狩翔陽高等学校との 高大連携協定調印式を行いました

令和2年10月2日に、北翔大学・北翔大学短期大学部（山谷敬三郎学長）と北海道石狩翔陽高等学校（藤井勝弘校長）との高大連携協定調印式を執り行いました。本学と道内高等学校との協定は16校目となります。

山谷学長は、石狩翔陽高等学校は総合学科として7つの系列で学ぶことができ、本学の7つの学科でのカリキュラムとオーバーラップする面も多いことから、相互の交流、連携を通じ、研究を進めながら、よりよい関係を築いていきたいと述べられました。



藤井校長は、地域の様々な力を集結して教育活動を行う、石狩翔陽高等学校応援団という構想をお持ちで、本学との連携を通じて、生徒のやる気を育てることができる一層魅力ある高校教育を実現していくといふと語られました。

また、学食レストランに飛沫防止パネルを全席110枚を設置させてもらいました。ソーシャルディスタンスで席数が減らされ昼食がとれない学生が不便を強いられていましたが皆が安心して食事ができる環境を提供する事が出来ました。

施設見学の後には、高校の令和4年度開設のスポーツ系授業計画作成についてご相談を受け、本学の専門教員からアドバイスさせて頂きました。連携協定発効の日から具体的な活動を実施することが多い、実りある高大連携協定の船出となりました。次は、生徒さんのご訪問を教職員一同、楽しみにお待ちしております。



同窓会

コロナ禍にエールを込めて

新型コロナウイルス感染拡大の中、大学生は移動範囲が広いとの理由で登校出来ず不自由な生活を強いられていた事に心を痛めしていました。

少しずつ再開するにあたり何とかエールを送りたいと思い大会に出場する部活と、オープンキャンパスのお手伝いをしてくれているPAL:Cに大学名入りのマスク総数800枚を支給する事にしました。

令和元年度 事業概要報告

大学ホームページで事業計画、財務情報などの公表を行なっておりますので是非ご覧ください。



令和元年度 資料貸出ランキング 学生トップ100発表

令和元年4月から令和2年2月4日講義最終日までの約10ヵ月間、図書館の資料を借出利用した学生の上位100位までを発表し、図書館入口掲示板に掲示しました。今年度より、資料の館外貸出及び館内閲覧回数が最多であった学生について、上位3位までを表彰しました。

学生の図書館資料貸出冊数は、文部科学省の学術情報基盤実態調査や朝日新聞社が毎年発行する『大学ランキング』でも調査項目となる大事な数字です。図書館資料を利用して学習・研究に励み、母校の評価向上にも貢献した学生たちを称えます。

※スペースの都合上10位までを掲載しました。トップ100は図書館入口掲示板に掲示しております。

順位	冊数	氏名	所属
1	378	浅井智美	こども学科 2年
2	331	武田美里	生涯スポーツ学研究科 1年
3	256	惣万啓太	人間福祉学研究科 1年
4	241	山田深雪	教育学科 2年
5	224	松岡優果	人間福祉学研究科 1年
6	210	兼重祐也	スポーツ教育学科 2年
7	197	成田百花	教育学科 3年
8	146	竹原夢	教育学科 2年
9	130	小野寺翼	教育学科 4年
10	123	奥山寧々	教育学科 2年

OPEN CAMPUS

2020-2021



春のオープンキャンパス開催！

令和3年3月中旬、来学型オープンキャンパスを開催します。学科相談や学びの紹介、在学企画のほか、各種相談（住まい、奨学金、教職、入試）など、大学生活を楽しみながらイメージしていただけるプログラムを用意しています。新型コロナウイルス症感染及び拡散防止のため、完全予約制とし、みなさまの安全に配慮して実施いたします。保護者の方の参加も可能ですので、ぜひこの機会に、進路選択のための興味を広げるきっかけとしてご参加ください。

令和2年度 第6回 オープンキャンパス	3月13日(土)	3月14日(日)	3月20日(土・祝)	3月21日(日)
第1回	6月12日(土)	6月13日(日)	6月19日(土)	6月20日(日)
第2回	7月24日(土)	7月25日(日)	7月31日(土)	8月1日(日)
第3回	10月2日(土)	10月3日(日)	10月9日(土)	10月10日(日)
第4回	12月11日(土)	12月12日(日)		
第5回	3月12日(土)	3月13日(日)	3月19日(土)	3月20日(日)

※開催日程・内容は変更または中止となる場合があります。
※新型コロナウイルス感染状況に配慮し、学科によって日程を分散して実施します。なお、感染が終息し安全に実施できると判断した場合、令和3年度は■の日程でまとめて実施することができます。

[お問い合わせ] アドミッションセンター TEL: 011-387-3906

北翔大学寄付金募集のご案内

本学では、このところの経済不況により就学の継続が困難な学生の増加に伴い、学生への支援とあわせて、良質な教育環境を今後も維持していくために、寄付金を募集しています。

ご支援を賜りました寄付金は有効に活用させていただき、有能な人材の輩出、社会に役立つ研究成果を通して、広く社会に還元し、貢献してまいります。ご寄付をいただいた金額に税制上の優遇措置を受けることができますので、企業等法人及び個人の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【募集期間】令和6年5月まで

(常時受付入れさせていただきます)

【お問い合わせ】総務部総務課まで

詳細は本学ホームページをご覧ください。
<https://www.hokusho-u.ac.jp>

御礼申し上げます

楽勝ジャパン株式会社様より
28,800円（現物寄付のため相当額）のご寄付をいただきました。（令和2年度）

小川裕美様より
20,000円のご寄付をいただきました。（令和2年度）

本学同窓会淑萃会様より
1,636,000円（現物寄付のため相当額）のご寄付をいただきました。（令和2年度）

ご支援賜りましたことを、厚く御礼申し上げます。



大学院での研究を
競技に活かし、
オリンピックで
姉を超えた! 一村田



当時は北翔大学に在籍していました。そんな姉と同じ道を歩もうとしたのです。バンクーバーで8位になりました。高校から北海道に移り、大学に入学したんです。

現存（ハラツル）書籍（シキ）3巻（サンマツ）著者（シナガタ）モーグル選手（モーグルセントス）各学年（カクゲン）部員（ブエイ）がいて、モーグル選手は各学年（カクゲン）に1人ずつ。なかなかどんどん実力（じ 實力）を伸ば（のび）している3年生（サンネンジン）の高岸（タカヒロ）くんはね

研究テーマとし、自分の競技力向上にもつなげたいと考えています。モードグルにはター、エア、スピードという3つの採点要素があります。僕が得意としているのはエアで、特にフルツイスト（後方1回転横1回捻り）は世界に通用する武器だと思ってます。ターンとスピードにも磨きをかけ、最大の目標であるオリンピック出場をめざします。姉の成績を超えてですね！【村田】

ので、これからも北翔のキヤンバズを拠点にお互い高めあつて行きたいですね。大学院では世界で活躍するモーグルのトップ選手たちの技術分析を研究テーマとし、自分の競技力向上にもつなげたいと考えています。

ターン! エア! スピード! 世界へ翔ける2人のモーグル選手に注目!

雪質の良さや強い選手が多い環境に魅力を感じ、富山県から北海道の大学に行くことを決めました。北翔大学を目指したのは、スポーツ教育学科があること、そして1つ上に村田さんがいることも大きかったのです。村田さんは普段はすこく優しい一方、滑りはすぐ力強くてかっこいい

僕の今の目標は、全日本選手権で表彰台に上がり、在学中にナショナルチームに入りて、卒業後も選手として活動を続けていくこと。ターンの技術を磨いてアグレッシブな滑りでスピードを磨いていきたいです。

モーグルは20～25秒の中にいろんな要素が凝縮された競技。各選手の特徴に注目して観戦するとおもしろいと思います！【高岸】

父が趣味でモーグルをやっていたこともあり、3歳からスキーを始め、小学校2年生でモーグルチームに入りました。最初はあまり乗り気じゃなかつたんですが、気づけば夢中になりました。

でやつています。 ウエイトトレーニングや走り込みなどは、種目を超えて一緒にキヤンバス内ですね。スキーパー部はみんな仲が良く、です。



より良い環境を
求めて北海道へ。
ナショナルチーム入りが
今 の目標! —高岸



村田 優太郎／1998年5月3日、福岡県生まれ。北海道科学大学高校（旧北海道商志学園高校）出身。モーグルのナショナルチームメンバーで、これまでワールドカップ3戦に出場。2018年2月、アメリカ・カナダのトップ選手が参戦する「Nor-Am Cup（カナダ・カルガリー）」で2位に輝く。その他、2020年2月の「全日本スキー選手権秋田さわぎ山大会」で1位など、国内トップレベルの実力。



高岸 岳／ 2000年3月26日、富山県生まれ。富山第一高校出身。2019年2月の「フリースタイルスキー秋田・田沢湖モーグル競技会」で4位に入り、ジュニア世界選手権に出場。エア得意技は、体を斜めに傾けた状態で横向きに2回転する「クスククリュー」。セントラルティ(720)。今シーズンからはこれまで3回転にバージョンアップしたテニティ(1080)で上位争いに挑んでいる。